



クリティカルパス展示

設され、健康医療の分野でも、技術面、制度面でビッグデータの整備を進められ、滋賀県からの委託研究として行われた滋賀県長寿の要因分析を例として、データサイエンス構築の重要性を具体的にお示しいただきました。

また具体的なビッグデータ活用例として、S1「ビッグデータの利活用と課題」でDPCデータのマネジメントツールとしての活用、医療の質・看護の質評価での活用等を、S10の「ビッグデータとICTが変える病院医療」では実際の病院医療への影響を、さらにS3「AIで医療・介護革命、豊富なデータで最適な医療・介護を導き出す試み」、S5「医療と介護のビッグデータ戦略」等々のシンポジウムが行われました。

心のケアのプログラムとして、招待講演2では京都開催ということもあり、宇治の国宝の鳳凰堂で有名な平等院住職の神居文彰先生に「いのちの看取りの物語」をご講演いただきました。「真に必要とする看取りとは何か？」様々な資料のご紹介もふまえて心に響くお話を聞かせていただきました。また招待講演3では、当初市民公開講座として依頼しておりました公益財団法人日本対がん協会会長/日本学士院会員/国立がんセンター名誉総長の垣添忠生先生からは、「人はがんとどう向き合うか？」と題して、ご講演いただき、奥様をがんで亡くされ、ご自身も3つのがんのサバイバーとしての経験を述べられ、「がんになっても安心して暮らせる社会を創ろう」「どんな小さなものであれ、ヒトは希望があれば生きられる」というメッセージを伝えてくださいました。

教育講演2では、千葉大学医学部附属病院医療安全管理部教授の相馬孝博先生に、「医療におけるリーダーシップ」、教育講演3では、東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野教授の長谷川友紀先生に、

「論文の書き方についてー学会雑誌投稿を目指してー」を、教育講演4では、社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 炭谷茂先生に、「済生会のSDGs(持続可能な開発目標)の取り組み」をご講演いただき、済生会の理念とSDGsは共通する面が多いことから、SDGsの各項目に沿った形で、済生会の中期事業計画を策定。その取り組みについてご紹介を、教育講演5では、社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ相談役/よこすか地域包括ケア推進センターセンター長の武藤正樹先生には、「2020年診療報酬改定を振り返って～働き方改革と地域連携～」を、教育講演6では滋賀県立総合病院総長・病院長/京都大学名誉教授の一山智先生に、「みんなで取り組む感染対策と医療安全」と題して、チーム医療、コミュニケーションの重要性を、各々ご講演いただきました。

教育セミナー1 医療安全「組織としての分析の考え方」は従来ワークショップ形式でおこなわれておりましたが、感染症対策の観点から講義形式での開催といたしました。教育セミナー2は本学会の定番プログラムとして、クリティカルパス「医療の質向上を目指してークリティカルパスの基本を学ぼうー」として、医療法人朝日野会朝日野総合病院病院長の野村一俊先生には、「クリティカルパスの基本と高齢社会に於ける取り組み方」を、一般財団法人新田塚医療福祉センター福井総合病院院長の勝尾信一先生には、「クリティカルパスの評価と見直しーPDCAサイクルとSDCAサイクルー」としてクリティカルパスの基本をご講演いただきました。

シンポジウムは12テーマが行われました。前述の「病院ビッグデータ革命」というメインテーマのAI,ICT関係のシンポジウムのほかに、継続されてきたテーマ「働き方改革」、「タスクシフト」、「特定行為」、「クリティカルパス」、「医療福祉連携士制度」とメインテーマと融合する形で、下記のシンポジウムが行われました。S2「医療者のためのワークライフバランス～働き方改革を考える～」、S4「特定看護師の今後の展開」、S6「クリティカルパスを活用するために」、S7「地域の住民、職人の技と知恵による京の食支援」、S8「働き方改革におけるタスク・シフティングの重要性」、S9「地域包括ケアとりハビリテーション医療」、S11「チーム医療を支える医師事務作業補助者の生涯教育について考える」、S12「医療福祉連携士制度の10年を振り返って、現状と課題及び将来展望」など活発な討論が行われました。